

- 1 題材名 曲の構成や曲想の変化を感じ取って歌おう
教材名 夢の世界を

2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

- A 表現 (1)ウ 声部の役割と全体の響きを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

〔共通事項〕

- (1) ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受けること。

(1)題材観

学校現場で音楽科が活躍する場面は多い。「入学式」や「卒業式」、「合唱コンクール」はもちろん、生徒集会などでも歌う場面がある。そのため、音楽の授業では大部分が合唱時間にとられている。個人、パート、全体など形はちがっても歌う機会が多く、「音楽の授業は嫌い」な生徒も実は「合唱は好き」な生徒は多い。

今回学習する「夢の世界を」は2学年の教科書に教材として扱われている。本校では、合唱コンクールの課題曲に、1学年は混声二部合唱の「朝の風に」、2学年では混声三部合唱の「夢の世界を」、3学年では混声四部合唱の「大地讃頌」としている。学年があがるにつれて、合唱の醍醐味のひとつであるハーモニーの充実を感じさせられる教材と考えている。「夢の世界を」は小学校で歌われることも多く、親しみやすい旋律であり前半の斉唱から後半のハーモニーの響きを感じることができる。今回の学習を通して声部の役割を理解するために、アルトや男声パートは主旋律でなくただ低い音という感覚でとらえている場合が多く、それぞれのパートの旋律が響きをつくり、音楽を構成する上での重要な要素であるということを理解させたいと考える。

音楽の授業の目的は、「生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てる」ことである。中学校の音楽教育は小学校・高等学校との関連を図りつつ、生涯にわたって音楽を生活の中に取り入れ、心豊かな人間に育つための基礎的な資質や能力、知識や技能をすべての生徒に対して育てていくことを目的としている。生徒が音楽活動を進めるうえで必要となる知識や技能などの基礎・基本はきちんと教えていかなければならないが、共通事項にもある「音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受けること。」に迫りたいと考え、本題材を設定した。

(2)生徒の実態(男子17名、女子15名、計32名)

明るく元気な生徒が多く、男女仲も悪くなく行事も一緒になって取り組んでいる。2学年はクラス替えを行ったので、合唱に関しては、作り上げていくというより一緒にやってみようという感じがまだ抜けていない。1学年では「朝の風に」を学習する際、曲中の世界観をイメージ画に描いてみた。力作も有り思った以上に歌詞の内容を読み込める生徒がいた。今回の「夢の世界を」は過去から未来へと時間の移り変わりがあるなど、イメージが広がっていく部分も多い。後半のハーモニーが表現によってどの様に変わっていくか、声部の役割を意識させながら、合唱の楽しさやハーモニーをつくっていくことのおもしろさを実感させて、合唱をつくりあげる意義や喜びを感じさせたい。

(3)指導観

生徒たちは、小学校からの合唱曲を通して「ハモる」という響き合う感覚をなんとなくではあるが感じている。しかしながら、あくまでも「主旋律とそれ以外のパート」という感覚で捉えている場合が多く、それぞれのパートの旋律が響きをつくり、音楽を構成する上での重要な要素であるという所まで考えていないのが現状である。そこで、本題材「曲の構成や曲想の変化を感じ

取って歌おう」では、混声三部合唱に取り組む段階として、全員で主旋律を含めた各パートを歌うことによって、それぞれの旋律が主旋律とどの様に関わっているのかを知ること、各パートのもつ意義を理解しつつ、合唱の楽しさやハモった時の感動を味わい、合唱に親しむ姿勢をつくっていきたい。

3 題材の目標

声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、曲にふさわしい合唱表現を工夫して歌う

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
・声部の役割と全体の響きに関心をもつことができる。	・音色、強弱、フレーズ、テクスチュアを知覚し、雰囲気を感じ取って歌うことができる。	・曲にふさわしい音楽表現や声部の役割と全体の響きを生かした技能を身につけて歌うことができる。	・他の声部の動きを感じ取って鑑賞することができる。

5 研究の視点について

視点2 思いや意図をもって表現したり、聴いたりする力の育成より、声部の役割と全体の響きとのかかわり理解するためには、テクスチュアや形式に注目しながら構造をとらえ、それぞれの声部をどのような声の音色、言葉の発音で歌ったらよいか聴き取って、表現に生かすような活動を行うようにする。

6 題材の指導計画(3時間計画)

次時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準〈評価方法〉
1	ねらい 声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、曲にふさわしい合唱表現を工夫して歌う	
次	1 ○他の声部の役割を意識して歌う。 ・楽譜に示された音符の動きに注意して、音取りをする。 ○斉唱の部分とハーモニーの部分の対比について意識させる。 ・強弱、過去と未来、伴奏の変化など	・音に注意して歌うことができる。 ・ワークシートに記入させる。
	2 (本時) ○歌詞を付けて歌ってみる。 ・全員でソプラノ、アルト、男声パートを練習し、歌ってみる。	・響きの変化を感じ取ることができる。 ・他のパートの役割を感じ取ることができる。
2次	3 ○全員でハーモニーをつくる練習をする。 ・後半のハーモニーの音を伸ばして、響きを感じる。 ○強弱や速さの変化などの表現の工夫をする。	・正確な音程で歌うことができる。 ・音の重なりを意識して、響きを味わって歌うことができる。

7 本時の学習 (2/3)

(1) 本時の目標

- ・合唱をつくる各パートの音を理解し、役割を意識して歌うことができる。
- ・ユニゾンからハーモニーへの広がりを意識して歌うことができる。

(2) 展開

学習内容と学習活動	○教師の関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 掲示物などを利用して意識づける。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">各パートの役割を理解し歌おう。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の続きをする。各パートリーダーを中心に、自分のパートの音とりをする。 <ol style="list-style-type: none"> ① 対比を利用した雰囲気の確認 ② 斉唱からハーモニーへの変化 ・ ユニゾンからハーモニーへ変わる瞬間からの音取りを、全員でする。 「さあ でかけよう」のフレーズのみ <ol style="list-style-type: none"> ① 全員でソプラノパートの音取り ② 全員でアルトパートの音取り ③ 全員で男声パート ・ 自分たちで歌ってみて、気づいた点をワークシートへ記入する。 ・ パートの組み合わせを替えて歌い合わせ、役割やハーモニー感を感じて歌う。 <ol style="list-style-type: none"> ① ソプラノ+アルト ② ソプラノ+男声 ③ アルト +男声 ・ 自分のパートにもどって、合唱をする。 ・ 本時の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートへの記入の確認をする。 ○ 各パートに鍵盤楽器を用意し、音取りにてこづっているパートへは、一緒に練習する。 ○ 掲示物(楽譜)を利用して、それぞれのパートの場所を確認する。 ○ ワークシートへ記入させ、発表させる。 ○ それぞれの旋律(パート)が、役割をもっていることを意識させる。 ○ ユニゾンからハーモニーへ移ってから、役割を意識しながら歌わせる。 ○ ソプラノ、アルト、男声の旋律を理解して歌うことができたか確認させる。